1	ノベー	ティ	ブ・	アブ	['] ローチ
	/ `	/ 1	/	//	\vdash

広告主名	オリィ研究所	期間	2019年10月7日 ~ 2019年10月23日
施策名	分身ロボットカフェDAWN ver.β	地域	東京

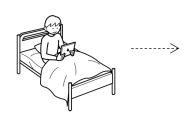
1. 施策の狙い

寝たきりでも、働ける。

日本において、肢体不自由者の就職率は約5%にとどまっており、労働人口の不足が叫ばれるなか、障害者雇用は進んでいない。一方で、障害者の多くも、企業に就職することを諦めてしまっている。

労働の機会がないために社会から孤立しが ちな彼らにとって、その最も良い解決策は、 必ずしも周囲からの援助ではない、と私た ちは考えた。

そこで、視線操作・マウス操作などによって寝たきりでも働ける分身ロボットOriHimeを用いて、障害者がカフェ店員として働く「分身ロボットカフェ」を実施した。社会に対して、新たな障害者雇用のきっかけをつくることが目的である。





2. アプローチ手法

社会参加の機会をつくる

「迷惑ばかりかけて申し訳ない」「自分には何もできない」と感じていた障害者たちには、「社会に貢献したい」という強い気持ちがあった。

分身ロボットカフェDAWN

体が動かなくても分身ロボットを通じて働ける、というメッセージを伝えるため、象徴的なカフェをつくった。

プロジェクトへの賛同を呼びかけて、企業9社から8,000万円の支援金を集めた。クラウドファンディングでは554人から約1,000万円の支援金を集めた。

その支援によって、ALSなどの難病を抱えた30人の障害者が、分身ロボットを通じて働く「分身ロボットカフェ」を大手町で3週間オープンした。

多くのメディアに取り上げられ、厚生労働 大臣や内閣府副大臣、野党党首なども訪れ た。最も重要な成果として、30人のパイ ロット(障害者)のうち、5人以上が企業 に採用された。

3. イノベーティブなポイント

障害者を取り巻く価値観の 刷新

障害者に働きがいや生きがいを提供するだけでなく、雇用主にも可能性を拓き、障害者と接する機会のない来場者に対しても、これまでにない体験を提供することができた。来場者約1,200人へのアンケートでは、98.9%が「カフェを楽しめた」と回答し、88.3%が「将来自分が外出困難になったらOriHimeで働きたい」と回答した。

外出困難者のワークスタイル の創造

障害者だけでなく、高齢者など様々な人が 遠隔で働ける新しいワークスタイルとして 定着するよう、活動を続けている。現時点 では社会実験だが、2020年には常設カフェ の実現を目指しており、昨年のイベントの 後、渋谷エリアで2回の追加実施を実現し ている。2019年12月にWIRED SHIBUYAで、 2020年1月にはWIRED TOKYO 1969で、同 様のカフェがオープンした。

AVATAR ROBOT CAFE



体が動かなくても働ける社会を

実現するプロジェクト

IDEA

開発するロボットスタートアップのオリィ研究所は、障害者が 3週間オープンした。企業にとって障害者雇用はハードルが 高く、多くの障害者は就労することを諦めてしまっているという 課題に対して、障害者雇用を促進することがキャンペーンの 目的である。

INNOVATION

ALSや寝たきり、車椅子などの障害者の雇用を促進するため に、このカフェはオープンした。合計30人の障害者が「分身 には、視線操作・マウス操作・スマホ入力など、どのレベルの障害 者も操作ができる独自のインターフェイスが搭載されている。

RESULT

500 g/k 8,3 億円 5 人以上 (30人中)

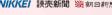




















自宅から操作している様子





イベント会場の様子











